

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「東大阪」

ながせがわ  
長瀬川 長瀬から河内小阪まで



三断面構造の長瀬川（森河内西附近）の写真



樟徳館



樟蔭学園 記念館



樟蔭学園附近の親水設備

所在地： 柏原市築留～大阪市放出第二寝屋川まで  
(取材範囲は長瀬から河内小阪まで)  
最寄駅： 近鉄長瀬駅 徒歩  
参考資料： 東大阪市 HP・学校法人樟蔭学園 HP・  
株式会社ウォーター・エンジニアリング HP

1704年、東大阪今米、庄屋中甚兵衛を中心に江戸幕府に嘆願し、水害に苦しむ村々を守るため、旧大和川付け替え工事が行われ、元の本流長瀬川は新たに生まれた農地に水を供給する為の代表的な水路となった。

長瀬川は柏原市の取水口を基点に淀川までの総延長14キロにわたる水路である。1950年頃から周辺の都市化に伴い流入する汚水が川を汚濁し始めたので、三断面構造の水路（分離流下）に改良した。中央部の広い断面に用水、両側の小断面に汚水を流す仕掛であり、この三断面構造は特別都市水路として認可された下水道の歴史遺産と呼ばれる施設である。

柏原市のレンガ積みアーチ型取水口は2001年、国の「登録有形文化財」に指定されている。1993年には大阪府の「いきいき水路モデル事業」として汚水排水路を歩道で覆い、植栽することで地域住民が憩える水辺空間に生まれ変わっており「疎水百選」にも選ばれた景観が形成されている。

また、近鉄大阪線長瀬駅から下流に有形文化財がある。昭和初期に東洋のハリウッドと称された帝国キネマ長瀬撮影所跡に建つ樟蔭学園創立者の私邸、木造二階建ての「樟徳館」と、そこから更に進むと樟蔭学園内にある大正モダンの雰囲気を持つ「記念館」に出会う、これらの建物を眺めていると、無言で長瀬川と共に育まれた歴史と文化が今に伝わってくるようである。

(市川博三)